

## 川崎市学童軟式野球大会 特別規則

### 1. 大会適用規則

本大会は、2023年度版 公認野球規則・2023年度版 (財)全日本軟式野球連盟の競技者必携の中で、学童部に関する事項及び大会特別規則を適用。

### 2. 大会特別規則

- (1) 試合は6回戦とし、試合開始の「プレイ」宣告後、1時間30分を経過したらそのイニングを最終回とする。  
(注) 決められた時間が経過したら、回数に関係なく正式試合とする。  
(注) 大会運営上6回が終了するか、決められた時間が経過して同点の場合はタイブレーク方式を行わず、抽選で勝敗を決定する。  
(抽選) 抽選は、〇×式とし、〇印の多いチームを勝ちとする。
- (2) 得点差によるコールドゲーム  
得点差によるコールドゲームは、3回以降10点差・4回以降7点差とする。  
(決勝戦は、4回以降7点差)
- (3) 再試合  
試合が5回以前に中止になった場合（ノーゲーム）、また5回が過ぎて同点で試合が中止になった場合（正式試合でタイゲーム）は、再試合を行う。  
ただし、以後の試合日程から試合の勝者は、1日2試合を行うことになる。
- (4) 投球数制限  
投手の投球については、肘、肩の障害防止を考慮し、1人の投手は1日70球以内を投球できる。継続して70球に達した場合、その打者が打撃中に攻守交代となるか、打撃を完了するまで投球できる。  
ボークにもかかわらず投球したものは投球数とする。  
また1日でダブルヘッダーや特別継続試合を行う場合  
1日で70球以内であれば引き続き投球することができる。  
\*シスターの部も1日70球の投球数制限を適用する。  
\*4年生以下の投手は1日60球とする。

### 3. 打順表と攻守の決定

- (1) その日の第1試合は、試合開始予定時間の30分前までに、第2試合以降は前の試合の2回終了時までに打順表を5通（登録された全員を記入し、必ずふりがなを付けたもの）を監督と主将が大会本部に提出し、登録名簿と照合ののち、球審立会いのもとに攻守を決定する。  
攻守決定ののち、3回終了するか1時間経過すればグラウンド内のブルペンで、先発投手のみ投球練習を行っても良い。  
(注) 前の試合が早く終了した場合は、次の試合を試合開始予定時刻前に開始することがありますので、試合開始予定時刻30分前には球場に到着して前の試合経過に注視すること。  
(注) 打順表記入の際女子選手、4年生以下の選手には〇印を付ける事。
- (2) ベンチは、組合せ番号の若いチームを一塁側とする。  
試合のベンチには、登録されユニフォームを着用した監督30番コーチ29番28番及び選手25名以内。チーム代表・マネージャー・スコアラー。  
熱中症対策として、ピプス着用の保護者2名以内をベンチに入ることができる。  
(チーム代表・マネージャー・スコアラーはユニフォーム以外の服装とする。  
スパッツに短パンではベンチには入れません。)

#### 4. 使用球と用具・装具

- (1) 使用球は連盟公認のナガセケンコーボールJ号とする。
- (2) チームはユニフォーム、アンダーシャツ等は、同色、同形、同意匠の物を使用すること。（連合チームは、背番号を同色、同形、同意匠とすること）  
但し、スパイクの色は自由とし、全員同色でなくても構わない。学童部は金属のついたスパイクは使用できません。尚、裾幅の広いストレートタイプのユニフォームは、監督、コーチも含めて使用を禁止する。
- (3) ユニフォームの袖の長さは両袖同一で、左袖に日本字又はローマ字による県名を必ず付けなければならない。また、他のものをつけてはならない。
- (4) バットは、金属バット、ハイコンバットは、J S B Bのマークのついた公認のものを使用すること。
- (5) 捕手の装具は、SGマーク付きの連盟公認のマスク、プロテクター、レガース、SGマークのついた捕手用ヘルメット及びファウルカップを必ず装着すること。  
(予備キャッチャーもファウルカップを準備する事)  
(女子選手については装着が望ましいが任意とする)
- (6) 打者、次打者、走者、ベースコーチは、S・Gマークのついた全軟連公認で両側にイヤーフラップのついたヘルメットを着帽すること。

5. シートロックは全会場全試合前に5分間ずつ行います。  
(大人の補助員はヘルメット着用です)

#### 6. その他の取り決め事項

- (1) ファウルボールは、一塁側のものは一塁側ベンチ、三塁側のものは三塁側ベンチ本塁後方のものは攻撃側で処理すること。
- (2) 攻守交代の時には、ボールを必ず投手板近くに置いて交代をすること。
- (3) ベンチ内でのスコア専用の電子機器1台の持ち込みは認めます。  
それ以外の電子機器類(スマートフォン・パソコンなど)は持ち込みを禁止します。  
メガホンは、ベンチ内に1個に限り許可する。

#### 7. 試合のスピード化に関する事項

- (1) 第三アウトが成立し、攻守交代時プレーヤーは十分な水分補給した後グラウンド内は駆け足で守備位置に向かうこと。
- (2) 守備側のタイムの回数制限について  
捕手を含む内野手が、投手のもとへ行ける回数は、3回以内とする。  
往復を駆け足で行いプレイの開始を遅らせてはならない。
- (3) 攻撃側のタイムの制限について、  
攻撃側のタイムは、3回以内とする。
- (4) 投手の塁への送球  
離塁していない塁への送球は遅延行為でボークになる。また無用と思われる塁への送球が度を過ぎると審判員が判断したら、反則行為とみなされる。
- (5) ネクストバッタースサークルでは、次打者はスタンディングで待つが良いがバットを振ってはならない。
- (6) ベンチ内の大人がいかなる場面でも、選手を萎縮させるような言動を禁止します。  
投手が投球態勢に入ったら無用な声は出さないようお願いします。